

# きっと見つかる! あなたに合った学校!!

## 第6回定時制・通信制等合同学校相談会



進路の選択に困っている中学生や高校生、不登校や中退してしまった学生や保護者を対象に、自分にあった学校を見つけてもらう機会として「定時制・通信制等合同学校説明会」が11月21日(日)に都立砂川高校の体育館で行われました。立川市を中心とした多摩地域の定時制・通信制の都立高校、私立高校15校と立川市をはじめ近隣市から参加者250名の来場がありました。

参加校は様々な形で生徒が学びやすい特色のある授業を取り入れており、学校ごとに設けられた個別相談ブースでは、参加者による質問や相談が行われました。いくつかの学校の話と比較しながら自分に合った高校を探すことができたようです。この相談会の趣旨である必要な情報を必要な方にお届けする機会となりました。

### 【参加者からの感想】

- ・質問した内容について詳しくかつ分かりやすく説明してくれてとてもよかった。
- ・どの学校も丁寧に説明してくれてよかった。
- ・貴重な機会をありがとうございました。
- ・個人的な相談が色々と出来てよかった。
- ・各ブースの先生方に細かく説明してもらいとてもうれしかった。少しだが高校のことがわかった。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・詳しく説明していただき、進学を控えた生徒にも役立つ情報を得ることができた。
- ・休憩場所があるため、資料を見返したり情報を整理したりできました。助かりました。
- ・都立が多いのがなによりだった。私立は開催が他にもあるが都立は少ない。都立を見れたのとお話が聞けたのがよかった。

### 2022年 成人を祝うつどい

成人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする  
新成人を市民と協働で祝い励ます

日時：2022年1月10日(月・祝)

<第一部> 11時半～12時半(開場11時)  
※対象校区 四中・五中・六中・七中

<第二部> 14時～15時(開場13時半)  
※対象校区 一中・二中・三中・八中・九中

場所：たましんRISURUホール(立川市市民会館)



第168号

2021.12.15

# 立川の青少年

編集・発行 立川市青少年健全育成地区委員連連合会  
編集長 関口 順孝  
事務局 立川市子ども家庭部子ども育成課  
042(528)4367

## 2021年 新成人対象交流事業



本格的な冬の訪れを告げる寒風の吹く中、立川市は今年1月の「成人を祝うつどい」に招待ができなかった若者たちに「新成人対象交流事業」が11月27日(土)子ども未来センターで行いました。集い、交流するきっかけとなるイベントとして15名の若者たちが来場しました。多くの人と一緒に成人を祝う写真撮影のコーナーや20歳の若者たちが歩んできた歴史を振り返る年表の掲示、中学校の恩師たちのビデオメッセージの放映を行いました。写真撮影コーナーではいろいろなポーズをとりながら写真を撮ったり、恩師ビデオメッセージでは懐かしい先生の様子に笑いがこぼれるなど短い時間でしたが、楽しんでましたようです。



令和3年度

### 中学生の主張東京都大会

「中学生の主張東京都大会」が9月12日(日)に東京都庁第一本庁舎大会議場で行われました。立川市から【優良賞】2名【奨励賞】2名が選ばれました。(応募総数 5,932 編)



吉田 琉生  
(立川第八中3年)

【優良賞】  
『本当のバリアフリー』



下津浦 美結  
(立川第二中3年)

【優良賞】  
『矛盾する「正しい」』

### 【奨励賞】

『災害への「備え」』  
日野 菜那 (立川第一中2年)

『休校中に学んだこと』  
若林 照 (立川第五中3年)



令和3年度  
東京都青少年健全育成  
功労者等表彰  
青少年健全育成若葉町地区  
新藤 富士雄 前委員長



令和3年度

### 立川市青少年健全育成功労者



阿部さん・有泉さん・須崎さん・市長・井口さん・櫻本さん

### 〇地区委員長退任者(敬称略)

<柴崎町> 井口 あつ子  
<羽衣町> 須崎 信行

### 〇5年表彰者(敬称略)

<富士見町> 有泉 智美/金子 穂之/萱間 源太  
黒田 裕子/鈴木 彦次/隅内 英雄  
<柏 町> 阿部 千々  
<砂 川> 今井 久美子/栗原 伸禎  
齊藤 留奈子/三浦 理英  
<西砂川> 家高 秀行/櫻本 砂子/林 明彦

### 第56回立川市青少年健全育成研究大会

ご案内「ひきこもりってなに？」  
～経験者とともに学ぶ～

【日 時】令和4年2月5日(土)  
14時～16時

【会 場】たましんRISURUホール 小ホール

【講 師】一般社団法人 生きづらサインクルーシブデザイン工房  
代表理事 大橋 史信 氏

### 令和3年度編集委員

徳永 弘子(羽衣町地区) 浅見 勲(若葉町地区)  
原澤 泉(曙町地区) 鈴木 美佐恵(砂川地区)

# 第41回 中学生の主張大会

## 「これだけは伝えておきたい今だから」



市長賞を受賞 ハーモントリーディランさん(立川第三中学校2年)



第41回 立川市中学生の主張大会

### 立川市中学生の主張大会受賞者 インタビュー

Q1. 発表にあたり、どのようなことに気をつけましたか？  
Q2. 将来の夢は？(何かやりたいと思っていること)  
Q3. 受賞の感想を一言でお願します

★市長賞  
ハーモントリーディランさん(三中・2年)

- A1. 話すときの姿勢と呼吸を意識し、みんなに視線をむけて話しました。
- A2. 災害時などに人を助ける事が出来る航空自衛隊員になりたいです。
- A3. 僕らの主張を発表できる場所を作ってくれて嬉しかったです。

★議長賞  
清水 芽依さん(三中・1年)

- A1. 緊張するとつかえる事が増えるので、なるべくリラックスしました。
- A2. クリエイターとして人が楽しめるものを作る仕事になりたいです。
- A3. 1年生である私が賞をいただけただけで、とても驚きました。

★議長賞  
長田 凜音さん(四中・1年)

- A1. 間の取り方や強調したい所など話し方に気をつけました。
- A2. キャビンアテンダントになるために英語を頑張っています。
- A3. とても大きい舞台上緊張しましたが主張したい事が言えてよかったです。

★教育長賞  
小松 未来さん(二中・3年)

- A1. 伝えたいことを明確にするために、間の取り方に気をつけました。
- A2. 公務員になって、地域の方々のために働くことです。
- A3. このような賞を頂くことができ、とても光栄に思います。

★教育長賞  
立石 颯大さん(五中・3年)

- A1. はっきり、ゆっくりと伝わりやすいように気をつけました。
- A2. 新しいものを生み出すような仕事がしたいです。
- A3. 自分の意見を発表できたうえ受賞することができて嬉しいです。

★特別賞  
山崎 真知さん(五中・3年)

- A1. 視線を聞いてくださる方に向けて話すようにしました。
- A2. 将来は理学療法士になりたいです。
- A3. 選ばれたと思っていなかったのに驚きましたし、とても嬉しかったです。

市長賞

教育長賞

議長賞

議長賞

教育長賞

特別賞

ハーモントリーディランさん(三中・2年)  
「ハーフは日本人じゃないの?」

立石 颯大さん(五中・3年)  
「平和学習の大切さについて」

清水 芽依さん(三中・1年)  
「私の病気を知ってください」

長田 凜音さん(四中・1年)  
「失って気が付いたこと」

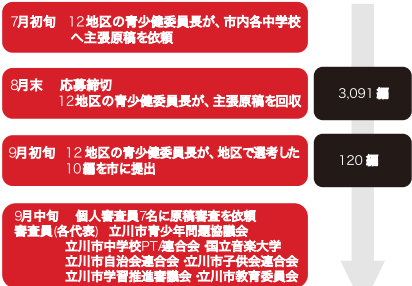
小松 未来さん(二中・3年)  
「偏見のない社会へ」

山崎 真知さん(五中・3年)  
「続けた先に見えるもの」



## 主張大会の選考とは

若葉町地区委員会



感染防止の観点から、参加者を極力少なくするために、学校関係者の参加を見送り、青少年委員のみの、約10人で審査を行いました。小人数ですので、審査にかかる時間はそれほど長くなり、10篇を選出するころには審査員のおじさん、おばさんたちは、グツグリとなっていてしまい(笑)。その審査会を毎年楽しみにしています。なぜなら、様々な視点から、何かを伝えたいと真剣に向き合う姿勢が、皆さんの文章から感じられるからです。

そんな真剣さが感じられる作品に相対する私たちも、真剣に向かっています。

だからこそ余計に選考に時間がかかってしまうかもしれません。自分の意見、意図が、自分の言葉で綴られている作品に、私たちは引き込まれ、感動を覚えるのです。そんな風に選出された120篇は、その後個人審査員へと託されます。

7人の個人審査員各々が120篇全てに目を通し、ある程度の目星をつけた上で、市役所で行われる個人審査会にかけられます。

個人審査員7名が一堂に会した話し合いを経て、発表者15名、優秀賞20名が最終決定されるのです。

## 主張大会のはじまり

第1回市長賞受賞 青木真優美さん 立川三中

当時のお話を伺いました。

### 当時の時代は

学校は、かなり荒れた状況でした。しかし一方生徒同士の仲間意識が強くお互いを認め合っている雰囲気がありました。そしてそんな生徒を、学校や先生、家庭、地域が一体のなってきたり、連帯感に満ちた時代だったと記憶しています。

### 当時は下ネタ

主張大会への参加は、先生に勧められました。また、当時ジュニアリーダーの活動にも参加していました。その仲間や地域の方々の後押しもあり、出場を決定したのです。

ジュニアリーダーの活動で障害者とのふれあいイベントがあり、その時の講演内容に感銘を受け、それを題材にしました。

当日は、各学校から選出された生徒が発表後、会場の審査員が各賞を決定します。その審査員は、日頃からお世話になっている地域の顔見知りのおじさん、おばさんたちだったのを覚えています。幸運にも市長賞を頂きましたが、その喜びよりも、発表の壇上での下ネタや緊張方が鮮明に記憶に残っています。

また、発表終了から審査が終わるまでの間、市長との懇談会がありました。緊張からの解放感と、普段はあまり接することが無い市長との懇談という事で、和気あいあいとした話が弾みました。それは、なかなか貴重な体験でした。

### 現在の自分

ジュニアリーダーの活動から始まり、児童に関わり続けて30年。その間、いつか子ども時代のジュニアリーダー活動が根源にあった気がします。

その当時、地域の方々には、見守りや寄り添いを頂き、楽しい活動をする事が出来ました。今、その当時の私に、周りの方々に大切にされてとても楽しかったねと話をかけたいと思います。今はその当時のご恩を返したいとして何より子どもたちの笑顔を見たいから活動を継続しています。

お話の中では、「子どもの笑顔が見たいから」「自分が大切にされたから」今度は私が大切にされる番。等、地域の皆様への感謝の言葉がたくさん聞かれました。今回青木さんは、地域の会合の後継い時間にもかかわらず、快くお話を聞かせて頂きました。当時の楽しいお話をたくさん頂き、ありがとうございました。



第1回は『少年の主張大会』市長賞『障害者との交流を通じて』青木真優美さん